

研究・調査報告書

報告書番号	担当
268	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
<p>Hypolipidemic action of dietary resveratrol, a phytoalexin in grapes and red wine, in hepatoma-bearing rats.</p> <p>肝ガン発症ラットにおける葡萄や赤ワイン中に含まれるファイトアレキシンのリスベラトロールの脂質低下作用</p>	
執筆者	
Miura D, Miura Y, Yagasaki K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Life Sci. 2003 ;73(11):1393-400.	
キーワード	
リスベラトロール、肝ガン、脂質、コレステロール	
要 旨	
<p>リスベラトロールは葡萄中やその関連生産品に存在する抗酸化物質である。本研究では日常的なリスベラトロールの摂取は皮下に肝ガン細胞腫 AH109A を移植した Donryu ラットでガン転移や高脂血症を阻害しうるかについて検討した。その結果、食餌中に 10 または 50 ppm リスベラトロールを加えて肝ガン発症ラットに 20 日間与えることによって、ガンの成長率や転移が投与量依存的に抑制される傾向が観察された。リスベラトロール(50 ppm)の投与は血清の脂質過酸化レベルを有意に抑制させたことから、その抗酸化的性質やあるいはその代謝産物が抗酸化的性質を有していることが <i>in vivo</i> レベルで示唆される。さらに、リスベラトロールは投与量依存的に血清のトリアシルグリセリドや超低密度リポタンパク質(VLDL)、低密度リポタンパク質(LDL)コレステロールレベルを有意に低下させた。リスベラトロールのコレステロール抑制作用の一部のメカニズムとして排泄物中の胆汁酸や中性ステロールの排出増加によるものであると考えられた。</p> <p>以上の結果から、日常的なリスベラトロールの摂取は肝ガン発症ラットにおいて抗ガン成長作用や抗転移作用とともに脂質低下作用も有していることが示唆された。</p>	